

3 図書館教育委員会

一 調査研究のテーマ

学校図書館を活用した授業を どう進めていったらよいか ～調べ学習について～

二 調査研究の成果

(1) はじめに

昨年度、学習活動に役立つ図書館環境についての調査研究、実践を行った。本年度はそこからさらに学校図書館の機能や活用のあり方、授業にどう関わっていくかの具体的な見直しをしていきたいと考えた。本年度、図書館教育委員会では、まずは図書館を活用した学習がそれぞれの学校でどのように行われているかの状況を知るために、市内各小中学校の司書または司書教諭へアンケート調査を行った。市内の全小中学校より回答を寄せていただき、それについて考察を行い今後を活かしたいと考えた。

(2) アンケートから示唆されたこと

<調べ学習における工夫点>

① 教科書教材と図書館での学習の結びつきを考慮して資料の準備が行われている。

司書の先生は調べ学習を意識しながら蔵書内容を考え、資料を計画的に図書館に準備している。公共図書館等も利用しつつできるだけ多くの資料を準備したり、別置きしてコーナーを作り探しやすいようにしたりしている。

② 調べ学習の時間を機会に、本の探し方や図鑑の使い方を意図的に指導しようとしている。

各学年の段階や単元に関わり、利用指導として年間計画に位置づけている学校もある。

<見えてきた課題>

③ 授業担任と司書との連携や連絡が十分でない。

事前の連絡がなく資料の準備ができないままに突然来館ということが多く、事前に授業に合わせた資料を多く準備することができない場合もある。『学習の場としての図書館』の役割が周知されていないとも言えるかもしれない。

④ 調べ方がよくわからないままに、調べる活動を行っている。

「テーマの絞り込みがなされないまま、行き当たりばったりで資料を探す」「丸写しで終わりで必要な情報を選択できない、抜き取れない」「複数の文献にあたることや、出典を明示する等のことがなされていない」などの児童生徒の実態がある。

調べる学習はきちんと手だてを示して指導していかないと力がついていけないので、児童・生徒が探し方を理解していないのは、調べ方の適切な指導がなされていなかったり、学ぶ時間が十分に確保されていなかったりしたままに過ぎている場合があるのではないかと考えられる。授業における調べ学習の指導が計画的に行われ、どの時期にどの時間で調べ方を指導していくかということを確認しておくことが大切である。

⑤ 授業と結びつけて調べ学習を行う時間を確保することが難しい。

特に中学では時間数が限られていて難しい。図書館を活用した学習は、日常的ではなく、行事の前の活動の一環のみになっていることも多い。

⑥ PCで手軽に調べられるためにインターネットを検索することで調べた気になってしまう。

情報過多の時代の中で様々な情報を判断し整理し解決する力を身につけるために、本で調べることの利点について、はっきりさせていくことも必要なのではないか。情報の信憑性を自分で判断するリテラシーを身につけていくためにも、まず本で調べる学習を行い、その基礎力を育てていくことへの共通理解をもちたい。

三 提案 見えてきた課題をもとに委員会では、特に④に関わり、調べ方のワークシートや手引きのようなものがあると取り組みやすいのではないかと考え、そのまま授業で資料として使っていただくことを考えて作成した。

(1) 小学校の取り組み

調べ学習のオリエンテーションで以下の資料を児童に配布しました。

【調べ学習ガイド】は、調べ学習の際に図書館を利用する時の基本を児童向けにわかりやすくまとめたものです。

調べ学習ガイドとしてわかりやすくまとめたものがあることで、子どもたちの調べ学習の手がかりとなりました。今後子どもたちが図書館を「便利な場所」としてとらえ、インターネットなどとうまく併用して利用していける工夫をしていくことが大切になってくると思います。

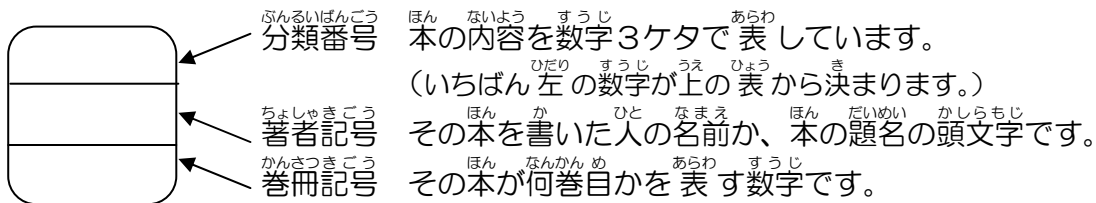
十進分類表では、番号や文字のみの掲示ではなく、低学年でも探しやすいようイラストも掲示されています。これによって1年生でも、「サッカーの絵があるからスポーツはここだ。」「スポーツは7番だよ」など自然と自分で本を探す手がかりになっています。低学年のうちから図書館の配置に少しずつなれることは、今後高学年、中学校…において自ら必要な資料を探すときの基礎になると思います。

しら がくしゅう
<資料> **★調べ学習ガイド★**～としょかん しら がくしゅう図書館で調べ学習をするには～
としょかん図書館には、しら がくしゅう調べ学習にやくだつほん本がたくさんあります。
これから、としょかん しら図書館で調べたいことがのっているほん さが本を探せるようになるために、
しら がくしゅう「調べ学習のポイント」を4つお話しします。これでみんなもとしょかん たつじん図書館の達人！

ポイント① 図書館の本は、内容によって「分類」で分けられています。

ラベルの色	ブルー	黄	オレンジ	あお青	みどり緑	こん	くろ黒	むらさき	茶	あか赤	赤
ぶんるい	0 総記	1 哲学	2 歴史・地理	3 社会	4 自然科学	5 工業	6 産業	7 芸術・スポーツ	8 言葉	9 文学	E 絵本
書目番号	百科事典・新聞・郷土資料	こころ・道徳・宗教	歴史・伝記・地理	戦争と平和・福祉・仕事・民話	実験・虫・恐竜・植物・動物	環境・工場・手芸・料理	農業・ペット・園芸・交通	絵・工作・おりがみ・劇・音楽	作文・言葉・ことわざ・英語	詩・俳句・物語	絵本

ポイント② ラベルには、こんなことが書いてあります。



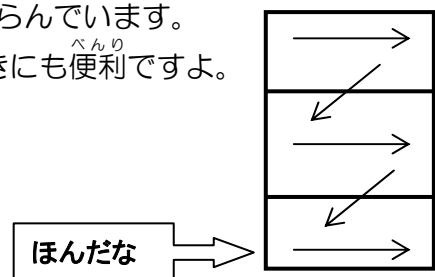
ポイント③ ラベルは本の「住所」です。

どの家にも住所があるように、図書館の本も、ラベルの番号でその本の場所が決まっています。

本の並び方は、分類番号の順番に、本だなの左から右へ、そして上から下へとなっています。同じ分類番号なら、著者記号の(ラベルの真ん中の字)あいうえお順に、なっています。

南小図書館でも、基本的に、この順番で本がなっています。

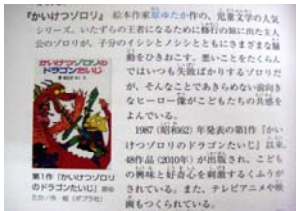
このことを知っていると、「みらい」で本を探すときにも便利です。



ポイント④ 「百科事典」を、やくだてよう！

調べ学習をするときは、まず図書館に入ってすぐ左、「0番」「グレーのラベル」の本がある本棚から始めましょう。ここには、例外的にラベルの色が違う図鑑なども置いてありますが、これは調べ学習をしやすいように本が集めてあるからです。

そして、調べ学習をするときに、まず見てほしいのが「百科事典」です。「ポプラディア」をはじめとする百科事典は、まさに「調べる本の王様」
いろいろな事や物について「早く」「簡単に」調べることができます。



←なんとポプラディアでは、「ポケットモンスター」や「かいけつゾロリ」についても調べることができます。

百科事典で言葉の意味を調べると、さらにいろいろな言葉が出てきます。その中から自分が知りたいことをしぼって、「テーマ」として決めます。

その「テーマ」について、もっとくわしく調べるためには、それぞれの分類の本棚で、くわしい本を探します。それぞれの分類の本は、棚に書いてある番号を目印に探してください。

このように、百科事典を引くことで、たとえば「自動車について調べたい」という目的が、言葉の意味を調べることで、「車の燃料について知りたい」「エンジンの仕組みが知りたい」など、より具体的になり、はっきりと調べたいことを決めることができます。

(2) 中学校向け参考資料「参考図書の活用方法」

様々な調べる手段としての図書の種類を知っておきたい。

<資料> 参考図書の活用方法

図書館には、「参考図書」と呼ばれる、調べものの手がかりとなったり、必要な統計や情報を調べたりするのに役立つ本が置かれています。調べる目的にあった参考図書を使うと、探している情報が素早く見つけることができるので、とても便利です。活用方法をマスターして使ってみましょう。

参考図書とは？

ことばの意味やある事柄について、分からないことやもっと知りたいことを調べるときに役立つ図書のことを、『参考図書』あるいは『レファレンス・ブック』といいます。

最初から最後まで通して読む小説などの一般図書と違い、必要なところだけを読んで利用するように作られています。 ※レファレンス(Reference)…参考・参照という意味

おもな参考図書の種類

①	ことばの意味や字を調べる	⇒ 辞書
②	ことがらや一般的な知識を調べる	⇒ 百科事典
③	土地や地名、地域を調べる	⇒ 地名事典・地図帳
④	歴史的なことがらを調べる	⇒ 歴史事典・年表
⑤	人物について調べる	⇒ 人名辞典・人名録
⑥	図や絵、写真を見る（植物、動物、芸術作品など）	⇒ 図鑑
⑦	統計・データを調べる	あるテーマについて、人数や件数などの数値(データ)を見る ⇒ 統計書
		政府が国の現在や未来について公式に発表する報告書を調べる ⇒ 白書
		1年間におこった出来事を調べる最近のことがらを調べる ⇒ 年鑑
⑧	どの本で調べればよいか分からない本について調べる	⇒ 本を選ぶための本

「辞典」と「事典」…ことばや字を調べるものは「辞典」、ことがらについて調べるものは「事典」という。

参考図書はどこにあるの？

ほとんどの図書館では、参考図書は貸し出ししていません。大勢の人が調べものに使うため、いつも図書館に置かれていないと不便だからです。参考図書は、みてすぐに分かるように「参考図書シール」が貼られていたり、図書館ラベルに「R」という記号が使われていたりします。また貸し出し本とは別に、参考図書だけまとめて置かれていることが多いので、探してみてください。

また参考図書は、「貸出禁止」のマークや「館内」のマークが貼られてあるものが多くあります。

参考図書の活用方法

～見出し・目次・索引を使って調べよう～

参考図書には、たくさんの項目がありますが、調べたい言葉が「目次」や「見出し」になっていることが多いです。また見出し語で調べたい項目が見つからなかった場合でも、「索引」から調べることができます。索引では、探したい項目について文章中の言葉や別名などから探すことができます。また関連する記述を探すことも可能です。

～参考文献でより詳しく調べよう～

参考図書に書かれていることは、ほとんどの場合、その項目について簡潔に説明されています。もっと詳しく調べたい場合は、その項目あるいは本の最後に紹介されている『参考文献』を探し、調べてみると良いでしょう。

～複数の参考図書を使って調べよう～

1冊の参考図書だけを調べるのではなく、複数の資料を使って見比べながら調べましょう。同じことがらを調べていても資料によって記述の仕方やデータの数値が異なっている場合があります。自分で吟味しながら調べていくことが大切です。

～凡例(はんれい)を読んで確認しよう～

参考図書に書かれている略語や記号などの意味、その図書の使い方が分からないときは、図書の始めに書かれている「凡例」を読むと良いでしょう。記号等の読み方が解説されています。

どんな参考図書があるの？

☆これらは安曇野市内の図書館にあります

①辞書・辞典

書名	編集・出版	活用例・内容
例解新国語辞典	三省堂	言葉の意味や文字の読み方、意味、使い方を調べたい。
角川漢和中辞典	角川書店	漢字の意味、部首、画数、熟語などを調べたい。
コンサイス カタカナ語辞典	三省堂	外国の言葉で日本でも使われている言葉を調べたい。
類義語辞典	東京堂出版	意味の似ている言葉を調べたい。
中国故事成語辞典	三省堂	故事成語の意味、現代語訳、原文を調べたい。
逆引き広辞苑	岩波書店	言葉の意味からそれに当たる言葉を調べたい。
現代用語の基礎知識 学習版	自由国民社	1年間に話題になったり、新しく生まれたりした言葉を調べることができる。(大人向け)

②百科事典…五十音順に配列された事典と、分野別になっている事典がある

書名	編集・出版	活用例・内容
総合百科事典 ポプラディア1～12	ポプラ社	様々なものやことごとについて、写真や図・表などで説明されている。
きっずジャポニカ 小学百科大事典	小学館	ジャンルを超えた様々な知識が、子ども目線で分かりやすく描かれている。

③地名事典・地図帳

書名	編集・出版	活用例
日本地名大事典	角川書店	各都道府県の地名について調べたい。
世界地名大事典	朝倉書店	世界の地名について調べたい。

④歴史事典・年表

書名	編集・出版	活用例
理科年表ジュニア版	丸善出版	理科に関係する統計などをおさめてある。

⑤人名事典・人名録

書名	編集・出版	活用例
コンサイス 日本人名事典	三省堂	あらゆる分野の日本人名を収録し、知っておきたい人名や調べたい人名について掲載されている。
教科書にでる 人物学習事典	学研	教科書に載っている人物名を詳しく調べたいときに役立つ。
現代用語の基礎 知識 学習版	自由国民社	現代社会を理解するために欠かせない基礎知識を分野ごとにわけて、中高生にもわかりやすいように、図解・イラストとルビ付きのやさしく解説してある事典。

⑥図鑑

書名	編集・出版	活用例
旺文社植物図鑑	旺文社	花の名前や植物の葉の形を知りたいときに役立つ。どれも
植物	学研	図解で載っている。
オルビス学習科学図鑑	学研	色々な分野に分けて、図解と説明が載っている。
動物図鑑ウォンバット	講談社	動物の大きさや生息地などを調べたいときに役立つ。どれ
動物の生態図鑑	学研	も図解で載っている。

⑦統計書・白書・年鑑

<統計書>

書名	編集・出版	活用例
日本のすがた	矢野恒太記念会	日本の社会を解説するグラフを中心とした統計資料。

<年鑑>

書名	編集・出版	活用例
朝日ジュニア学習年鑑	朝日新聞出版	百科事典と統計を合わせたような内容で、その年の出来事などを紹介している。

⑧本について調べる本

書名	編集	活用例
新・どの本で調べるか	図書館流通センター	調べものをするとき、どんな本を見ればよいか分かる。
どの本よもうかな	日本子どもの本研究会	
本選び術	図書館資料研究会	

<参考文献>

- ・山梨県立図書館「参考図書を使いこなそう」2008. 2 <https://www.lib.pref.yamanashi.jp/>
- ・京都市右京中央図書館「調べものの基本 参考図書を活用しよう！」2011. 5
- ・図書館利用ガイド <http://www.kyotocitylib.jp/ukyochuo/index.html>
- ・横浜市立図書館中央図書館 参考図書<調べるための本>を使ってみよう
<http://www.city.yokohama.lg.jp/kyoiku/library/te>

四 調査研究を振り返っての感想と 来年度の方向

- 県図書館協会の研修会等に参加するなど調べ学習についての様々な研修や、情報交換を行ってきた。その中で、自分で課題をもって調べ自分の考えをまとめたり深めたりする学習を積み重ねていくために、索引や目次の利用方法、テーマの決めだしやまとめ方など様々な角度からの取り組み一つ一つが大切なことを改めて学ぶことができた。
- 市内各学校の司書教諭・司書の先生方には、アンケートにとっても詳しくご協力いただきありがとうございました。各教科学習における興味や疑問、体験的な活動を通してうまれた疑問や課題などについて調べたり、取り組む前に調べて活動を充実したものにしたりする学習を行ったりする場として、学校図書館の環境や特に司書の先生との連携は、とても大切であることも改めて感じた。
- 来年度の方向としては、引き続き調べ学習に活用できる内容のワークシートの作成や、それを使っての授業実践や活動例などを検討し積み重ねていくことで、さらに研究を深めていきたい。

五 付記資料 11月13日に、中信地区学校図書館教育研究会が行われた豊科北小学校の実践から、同校研究主任に寄稿していただきました。

豊科北小学校 図書館教育実践報告

I. 豊科北小学校の図書館教育研究の方向

学校図書館には「読書センター」としての図書館、「学習センター」としての図書館という、2つの役割が求められています。豊科北小学校は週に一度の図書館の時間と、毎朝の読書の時間が設定され、読書センターとしての役割は定着しています。そこで、学習センターとしての図書館のあり方を、調べ学習に焦点をあて、研究していくこととしました。図書館教育の研究テーマは、子どもが主体的に調べ学習を行う授業を目指し、「子どもが自分の願いを持ち、主体的な調べ学習を行うための支援はどうあったらよいか」と設定しました。

調べ学習には「調べる課題を持つ」「実際に調べ学習を行う」「まとめをする」という3場面があると考えられます。具体的に願う子どもの姿としては、「調べる課題を持つ」場面では、『これが知りたい』という明確な課題を持てる子ども、「実際に調べ学習を行う」場面では、「必要な資料から、必要な情報を探せる子ども」、「まとめをする」場面では、「調べたことを、進んで活用し、表現する子ども」です。それぞれの場面で願う子どもの姿を実現するためには、それぞれの場面で、手立てが必要になります。中信地区図書館教育研究会では、3年生の国語と5年生の家庭科の2つの授業を公開しました。2つの授業とも、「課題を持つ」「調べ学習を行う」「まとめ」の3つの場面それぞれで、願う子どもの姿を具現化するための手立てがうたわれています。

II. 3年生国語の授業より

3年生の国語は「本で調べて報告しよう」の単元でした。調べる題材として現在の道具と比較することができイメージしやすい「昔の道具」を設定しました。「調べる課題を持つ」場面では子どもの関心を高めるため、あえて道具名は出さず、道具の写真だけを子どもたちに提示しました。写真を見て自分の興味を持ったものを選び、何の道具か予想を立てました。写真からはなんだかわからないものが多く、自分の選んだ道具だけでなく、友達の選んだ道具もお互い予想しあって、大盛り上がりでした。

「実際に調べ学習を行う」場面が公開授業でした。前時で「自分の選んだ道具が何の道具か知りたい」という明確な課題を持てたことが、本時で意欲的に調べる姿につながったのだと思います。本時の手立ては「何を調べるのか」が明確に絞り込まれた学習カードでした。「いつ」「どうやって」「何のために」という学習カードの項目を意識しながら資料を読み取り、大事な部分を書き出していきました。資料をうまく探せない子どものために、同じテーブルに座るグループには、同じ分野の道具を選び、助言し合えるようにしてある授業者の配慮もありました。また市内各学校・図書館からも昔の道具を調べるための図鑑をお借りすることで十分に資料がそろえられていて、調べ学習をしやすい環境が整えられていました。参観者の先生方からも「子どもの意欲を持って調べようという姿がよかった。」「資料をそろえ、調べられる環境が整えられていたことがすばらしい。」というご意見をいただきました。また「一人で資料を探せずにいた子どもがいた。」というご意見もい

ただき、一斉に調べ学習をする時に全員を支援することの難しさを感じました。

Ⅲ. 5年生家庭科の授業より

5年生の家庭科は「季節のみそ汁を作ろう」という題材でした。「調べる課題を持つ」場面では、みそ汁の実を自分で選べ、実際にそのみそ汁を食べられるということが、子どもに意欲を持たせるものでした。また、自分で調べたものをみそ汁に入れられるわけではなく、「班の中で話し合って実を決める。」という“まとめ”の手立ても調べる意欲をかきたてる要因でした。しっかり調べて班の友達にプレゼンテーションしないと、自分の食べたい実が入れないからです。このクラスでは9月にもみそ汁作りを行っており、その時に自分の食べたい実を入れることができなかつた子どもたちは、さらにしっかり調べようという意欲が高まっていました。「調べる場面」では情報カードに記入しました。学習の仕方が分かっているため、子どもたちは何を調べればよいかを身につけており、「話し合い」に有効であると考え「旬」「含まれる栄養素」「豆知識」などのポイントを書き込んでいました。大きさも名刺サイズで、自分の調べた情報を見比べることができるものでした。

本時は「まとめをする」場面で、自分の調べた情報をもとに、班でみそ汁の実を決定する話し合いが行われました。今回は例えば「彩りにこだわろう」といったようにみそ汁のテーマを決めてから話し合いに入らせたため、前回よりも話し合いの視点がしっかりしていたと思います。参観者の先生方からも「子どもたちが、資料をもとに自分の作りたいおみそ汁について、とても意欲的に追究している姿がありよかった。」「カード”がいい工夫だった。」「盛んに議論した末、『こういう時は本だ』と言って、教室に置かれた本を即座に利用していた様子を見て、情報の利用の仕方や習慣が身についていることを感じた。」など子どもの意欲的な話し合いや、カードのよさにご意見をいただきました。

Ⅳ. 研究を通して

調べ学習は3場面あり、それぞれの場面で手立てが必要と考え、研究を行ってきました。

「課題を持つ」場面で「この道具がなんの道具なのか知りたい!」「自分の好きな実をみそ汁に入れるためにアピールポイントを調べたい!」という、しっかりと課題を持ったことが「調べ学習を行う」場面での意欲的な姿につながりました。また「まとめをする」場面で、「自分の調べたことをもとに班で話し合ってみそ汁の実を決める。」「自分の調べたことをもとに報告書を書く。」という、調べたことをどのように活用するのか見通しが持っていたことも、「調べ学習を行う」場面での自主的な姿につながっていました。

また「調べ学習を行う」場面で、知りたいことが調べられたり、新たな発見があったりした姿は「まとめをする」場面での、積極的に報告文を書いたり、自分の入れたい実を班でアピールしたりする意欲的な表現につながっていました。

このように、場面は独立しているのではなく、つながっているということを強く感じました。どの場面つまづいてしまっても自主的な調べ学習にはなりません。やはり、それぞれの場面で、子どもの実態に合わせて支援を行うことで、子どもの力は引き出されるということがわかりました。

各種委員会の活動・調査研究の成果と 次年度への展望

図書館教育委員会	
活動・調査研究の成果	次年度への課題・要望
<ul style="list-style-type: none"> ・本年度の委員会では、学校図書館の機能や活用のあり方、授業にどう関わっていくかの具体的な見直しをしていきたいと考えた。そこで、図書館を活用した学習がそれぞれの学校でのどのように行われているかの状況を知るために、市内各小中学校の司書または司書教諭へアンケート調査を行った。市内の全小中学校より回答を寄せていただき、それらについて考察を行い今後に活かしたいと考えた。 ・見えてきた課題から、調べる学習の方法を見童生徒に示していくことが必要であると考えた。調べ方のワークシートや手引きのようなものがあると取り組みやすいのではないかと考え、そのまま授業で使っていただけるような資料を実践、作成した。活用していただけるとありがたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習を行う上での、学習内容ごとの参考資料のリストや、調べる方法に関わるワークシート作りなどを、今後も継続していきたい。 ・作成した資料を使っでの授業実践や活動例などを検討し、積み重ねていくことで、さらに研究を深めていきたい。 ・委員のそれぞれの学校での担当が、自ら調べ学習の実践を行うことが難しく、授業実践報告の形で行えなかったのは残念であった。来年度は、具体的な授業実践ができるとうい。

